



【担当】
国際学部

国際キャリア教育プログラム

国際学部

以下の3つの授業からなる国際学部の専門科目です

- ①国際キャリア教育
- ②International Career Seminar
- ③国際キャリア実習

他学部の学生、全国の大学からも参加のある、学外に開放されたプログラムです。

詳細 <http://www.kokusai.utsunomiya.ac.jp/career-program/index.html>





国際キャリア実習

国際学部

グローバルな課題を扱う職場で将来活躍する事を目指し、国内外の企業、NGO、公的機関等でインターンを経験し、国際的なキャリアの形成につなげています。長期休暇などを利用した80時間のインターシップです。

【担当】
国際学部





【担当】
国際学部附属多文化公
共圏センター

HANDS事業 (外国人児童生徒支援事業)

国際学部

県内10市町との外国人児童生徒教育推進協議会、多言語による高校進学ガイダンス、外国につながる子どもを支援するすべての人が情報を交換し相互に研修できる場を目的としたHPの開設、『中学教科単語帳』『教育必携〜』刊行、外国人生徒進路調査、小中高等学校等へ学生ボランティア派遣、小中高等学校における国際理解教育の実践、教育現場・行政・NPO・地域等で外国人児童生徒やグローバル化に向き合う人材を育成するための授業「グローバル化と外国人児童生徒教育」を開講。





【担当】
国際学部附属多文化公
共圏センター

多文化公共圏センター事業

国際学部

- ・グローバル教育セミナーの開催
- ・宇都宮大学生国際連携シンポジウムの開催
- ・地域連携交流

「国際交流都市日光の再発見」フィールドワーク及びシンポジウムの開催

- ・福島原発震災に関する研究フォーラムの開催

詳細は、次のリンク先をご覧ください。

<http://cmps.utsunomiya-u.ac.jp/>





【担当】
国際学科 重田、阪本
留学生・国際交流セン
ター 湯本

グローバル・イシュー研究演習

I・II

国際学部

○本演習は、「アクティブ・ラーニング」科目である。多文化公共圏センターの協働の下「グローバル教育セミナー」の企画・運営・インタビュー・訪問等を通じて、学生が「グローバルな実践力」、「将来のキャリア形成への意識」を獲得する。

○本演習は、学生が主体的な学びを通じて、グローバル・イシューについて理解しかつ認識を深め、地球にある諸問題の解決に対して積極的に行動してくための「グローバルな実践力」や「将来のキャリア形成への意識」を養うことを目的にする。





【担当】
国際学科 重田康博

国際協力研究D

国際協力論実習・国際協力論

国際学部

国際協力とは何か、世界にはどのような開発に関する諸問題があるのか、開発に従事する関係者はどのような姿勢や心構えでないといけないのか、その問題発見能力や問題解決するための行動力を身に付け、国連持続可能な開発目標（SDGs）、国際協力のキャリアを学びます。実習先として、栃木県西那須ないある準学校法人アジア学院、国会図書館、JICAなどを訪問します。



国際・専門科目「環境と国際協力」「地球環境政策論」「環境と国際協力演習」

専門科目「環境と国際協力」では、持続可能な発展に向けたパラダイムシフトについて学んだ上で、環境問題をめぐる国際協力の事象を構造的に捉え、理論的・実証的に考察します。

「地球環境政策論」では、持続可能な発展への歩みが、地域、国、地方レベルで異なる理由やその帰結を、政治学の概念を用いながら、多面的に考察します。

演習では、低炭素社会・循環型社会形成へ取り組む市民・企業・行政機関などへのフィールドスタディなども実施しています。



【担当】
高橋 若菜



ジェンダー不平等解消に向けて : 専門科目「ジェンダー論」と 「女性教員海外派遣制度」

ジェンダー平等とそのための女性のエンパワーメントは、貧困や飢餓を撲滅し、健康を促進し、不平等や女性への暴力に取り組む方法を見出し、持続可能な発展へ向かう前提条件であることが、SDGsや他の国際決議等でも広く認識されています。「ジェンダー論」では、ジェンダー問題を多分野の研究者が多視点的にひもときます。一方、日本の学術界もジェンダー平等から程遠い状況にあります。本学でも女性教員は2割です。そこで文部科学省支援事業により、女性教員の海外派遣制度が設けられました。国際学部からも派遣が進んでいます。



【担当】
バーバラ・モリソン、高橋
若菜、丁貴連、戚傑、飯
塚明子 他



持続可能な発展へのパラダイム・シフト（低炭素社会・循環型社会の実現に向けて）

環境と経済は相対するという考えから、あらゆる主体の参加やシステム改変により両立可能とする持続可能性パラダイムへ、パラダイム・シフトが起きています。欧州とアジアの複数国・地域における、低炭素社会（経済）／循環型社会（経済）への取組に着目し、パラダイム・シフトが起きるためのガバナンスの要件を多視点的に考察する、学際的・国際的研究です（科研費2010-13, 14-18, 18-21年度）。研究の一部は、各種講演会、行政の各種委員での貢献等を通じ、発信しています。



【担当】
高橋 若菜



福島原発震災に関する研究フォーラム(2015～)・福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト(～2014)

2011年3月の東日本大震災以降に実施してきた福島原発震災の被災者支援・調査活動をもととして、福島原発震災が社会にどのような影響を及ぼしたかを構造的な視座から捉え記録しています。避難当事者や団体、行政機関、法曹界、他大学の研究者と連携し、シンポジウム、セミナー、被災者交流会等を実現し、書籍や論文の出版、メディアへの露出などを通じ、広く社会に発信・公表しています。関連する外部資金として、科研費、民間財団による研究や活動助成など、幅広く受けています。



【担当】

清水奈名子・高橋若菜・
阪本公美子・重田康博



自然由来の解決法(NBS)を通じた持続可能な都市形成にむけてのガバナンス国際比較

持続可能な都市の形成には、人工インフラストラクチャに、自然由来の解決策（NBS）を組合せ、都市レジリエンスを高めることが重要です。NBS導入に向けては、行政、市民、企業など多様な主体の、意思決定への参加や情報公開など、ガバナンス動態が大きな影響を及ぼします。欧州で、NBSをめぐるガバナンスを国際共同チームとともに研究してきたバーナデット・キッシュ博士が、日本の研究者たちと協働し、宇都宮市をはじめ、日本のNBSを探求します。（2019-21年度）



【担当】
高橋 若菜
JSPS 外国人研究員
バーナデット・キッシュ



国際・専門科目「途上国経済発展論」「アフリカ論」 基盤科目「アフリカ学入門」

専門科目「途上国経済発展論」では、貧困や不平等、持続可能な発展のあり方について、私たちの生活と関連して学んでいます。

SDGに関連する具体的な指標についても学んでいます。

「アフリカ論」の授業では、アフリカの貧困、食、子どもの健康、ジェンダー、紛争について学んでいます。

「アフリカ学入門」では、アフリカの糶摺りや水くみを体験し、女性の労働についても考えます。



【担当】
阪本 公美子

2 飢餓を
ゼロに3 すべての人に
健康と福祉を5 ジェンダー平等を
実現しよう15 陸の豊かさも
守ろう

東アフリカ(タンザニア)における 在来知・在来資源に基づく 生活改善

「東アフリカの野生食用植物・在来食の可能性—タンザニアにおける栄養分析を通して」(2018 - 2021年度)：野生植物や在来食の栄養価を活かした生活・栄養改善を提案。

「在来知の格差・近代的変容・革新—タンザニアにおける薬草資源と諸アクターの役割」(2015 - 2019年度)：薬草資源がどのように活用されている研究し、地域に還元。

「生存をめぐるパラドックス—乳幼児死亡を軸としたタンザニア最貧困地域の比較研究」(2013 - 2016年度)



【担当】
阪本 公美子



【担当】
国際学部国際学科
農学部農業環境工学科

海外フィールドワーク演習(国際) 国際協力の課題と実際(農他)

国際学部

国際学部と農学部による共同授業。2018年度より単位化および全学部受講可。それぞれの学部での学びと専門性を共有しながら、国際協力の現場と現状を理解する。JICA筑波でのアフリカやアジアからの長期研修生との交流、3月には海外研修（希望者）を実施し、学内での学びと現場を結びつける。



4 質の高い教育を
みんなに



5 ジェンダー平等を
実現しよう



10 人や国の不平等
をなくそう



【担当】
国際学部 栗原研究室
農学部 福村研究室

UU-TEA Project (JICA草の根技術協力支援事業)

国際学部

「スリランカ紅茶プランテーション農園コミュニティの小学生
への課外活動支援」

農園内コミュニティの青年層への課外活動運営研修

青年層による、農園内小学校3校での自習支援

子どもたちによる課外活動の企画・立案の支援

宇都宮大学学生と紅茶農園の子どもたちとの交流



4 質の高い教育を
みんなに



17 パートナースhipで
目標を達成しよう



サラワク大学英語研修(「外国語臨 地演習」:国際学部、「海外英語研 修」:地域デザイン科学部、教育学部、 工学部、農学部)

国際学部

本教育プログラムは、マレーシアのサラワク州にある宇都宮大学の大学間交流協定校サラワク大学における2週間の英語研修である。目的は英語運用能力の向上はもちろん、SDGs視点を持ったグローバル人材の育成にある。受講生は、国内だけではなく、SDGs視点で世界の現状を学び理解を深めることを目的に、それぞれの学部の専門性を生かし、SDGsの17の目標のいずれかに関連したテーマについて現地で調査を行い、発表する。

【担当】
国際学部国際学科
出羽研究室





国際・専門科目「国際法」「国際人権論」 基盤教育科目「国際化と人権」

国際学部

○専門科目「国際法」では、紛争が発生したときに、法がどのように機能するのか、また、そもそも国際社会のルールとは何かについて学んでいます。SDGsと国際法との相違の興味深いポイントについても講義でお伝えします。

○「国際人権論」の授業では、国際的な人権保障のフレームワーク、紛争のメカニズム、平和構築、国際刑事司法、真実の究明、和解について学んでいます。

○「国際化と人権」では、平等の概念についてジェンダー平等政策から紐解いたり、また、難民と国内避難民の相違や日本国内外の難民政策の比較検討についてディベートを行っています。



ゼミ生と平和宮にて



国際刑事裁判所の法廷



実務経験に基づく講義

【担当】
国際学科
藤井広重研究室



国際法演習(国際学部)、「International Humanitarian Law in Theory and Practice」(全学)、国際人道法ロールプレイ大会・国際人道法模擬裁判国内予選会宇都宮大学チーム指導教員(全学)

国際学部

○「国際法演習」では、国際刑事裁判所の機能について、アフリカを中心に事例研究に取り組んだり、希望者多ければ模擬裁判を実施しています。

○「International Humanitarian Law in Theory and Practice」の授業では、国際人道法の知識に加えて、人道支援の現場で求められるスキルを習得するために様々な規範をロールプレイを通して学びます。

○国際人道法ロールプレイ国内予選大会と国際人道法模擬裁判国内予選会へ出場する宇都宮大学チームを指導しています。学内選抜をするときがありますが、国際学部の学生に限定せず全学からの参加が可能です。

○研究室のHPはこちらです。 <https://www.fujiih.com/>



国際法演習での模擬裁判の様子



IHLロールプレイコンテストへの出場



国連職員(UNDP)による講演会

【担当】
国際学科
藤井広重研究室

「International Humanitarian Law in Theory and Practice」 (全学)

○「International Humanitarian Law in Theory and Practice」の授業では、国際人道法の知識に加えて、人道支援の現場で求められるスキルを習得するために様々な規範をロールプレイを通して学びます。

○国際人道法ロールプレイ国内予選大会に出場する宇都宮大学チームを指導しています。学内選抜をするときがありますが、国際学部の学生に限定せず全学からの参加が可能です。

○研究室のHPはこちらです。 <https://www.fujiiah.com/>



【担当】
国際学科
藤井広重研究室



国際人権人道規範の地域社会における受容プロセスに関する研究：SDGs を通じたグローバルな人材育成の試みを通して（2019年度）

外務省から国際司法協力担当大使をお招きし、国際刑事裁判と平和についてご講演いただいた。国際刑事司法の実務の現場や国際的なキャリア形成についての力強いメッセージは、参加者にとって学びも多く刺激的であった。これを受け、2020年にはウガンダでのゼミ合宿を計画している。紛争後のリアリティを学生に調査する機会を与え、帰国後の地域での活動（人権ワークショップの開催）につなげる。

講演会の詳細 <https://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/research/008042.php>



【担当】
国際学科
藤井広重



国際人権人道規範の地域社会における受容:SDGsを通じたグローバルな人材育成

○2019年宇都宮大学SDGs 推進研究奨励賞を受賞した本プロジェクトは、「平和の担い手」と呼ばれる人材育成を地域社会において実践することを目的としています。

○本プロジェクトは、学生の学会での報告と受賞、小学校でのイベント、オープンキャンパスでの展示等、国際の平和と司法に関する分野において、グローバルな様々な面からアプローチし、成果をあげてきました。詳細はお問い合わせください。



【担当】
国際学科
藤井広重研究室





小中学生に対する国際的な人権基準に基づく人権ワークショップ活動

国際学部

○本プロジェクトは、宇都宮市主催大学生によるまちづくり提案発表会2019で第1位を獲得しました。プロジェクト名は

「あらゆる場面においても、子どもの権利保障に向けた市民参加型アプローチの実践～「未来都市うつのみや」におけるSDG16の推進と循環の「わ」～」。

○これまでに複数回、高校生からボランティアを募り大学生が主体的に市内の子ども食堂や子ども広場等にて小中学生に対し、人権ワークショップを実施してきました。

○詳細は、宇都宮大学ウェブサイトの記事を御覧ください。

<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/community/008118.php>

【担当】
国際学科
藤井広重研究室

感染症と平和・人権プロジェクト

国際学部



○メンバーは、国際学部2年～4年生と農学部2年生の10名です。2020年3月から学生が中心となって遠隔での打ち合わせを重ね、過去の感染症について調査を実施。5月下旬には、最初の成果物となる「エボラ出血熱の発生から終息宣言まで— 私達の新しい生活様式に向けた過去からの教訓」と題したポスターを作成し、図書館、国際学部棟やUUプラザの一部でチラシ版を置いています。

○詳細は、宇都宮大学ウェブサイトの記事を御覧ください。

<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/newtopics/008370.php>

【担当】
国際学科
藤井広重研究室



【担当】
国際学科
藤井広重研究室

アフリカにおける法の支配と国際刑事裁判所

国際学部

○本研究は、紛争経験地でのフィールドワーク等を通し、アフリカが外部からの介入に対し、その相互作用として外部に影響を及ぼそうとするプロセスについて理論的に捉えることで、アフリカでの平和構築活動に貢献することを目的としています。

○最近のアフリカでの調査についてはこちらからご覧ください。

<https://www.africapotential.africa.kyoto-u.ac.jp/mms/fieldrepo/fujii201901>



10 人や国の不平等
をなくそう



16 平和と公正を
すべての人に



17 パートナースhipで
目標を達成しよう



【担当教員】

国際社会学科 栗原俊輔

【担当学生】

国際社会学科 渡辺早希

矢野いずみ

“難民”とは一体誰なのか？ -人とながり、映し出す世界-

国際学部

【成果報告と今後の活動】

2019年12月12日-16日の5日間にわたり、済州島をはじめ、韓国に難民としてたどり着いたイエメン人たちの境遇や生き様を取材し、その模様を等身大のドキュメンタリー映像に収めた。また、この映像をグローバルガバナンス概論の時間に上映することで、境遇にとらわれず、新たな地で、たくましく生きる彼らの姿から、これまで私たちが抱えてきた“難民”に対するイメージを問い直すきっかけとした。

今後も、大学内にとどまらず、この映像を一つの対話のきっかけとして、「難民に“ついて”学ぶこと、から、難民と“ともに”語ることへ。他人事から自分事へ。」のコンセプトのもと、実際に日本における難民申請中の方々や宇都宮大学生、市民が対等に、難民問題について意見交換できるような対話の機会を提供していく。本プロジェクトを通して、学生同士、若い人同士の対話からパートナーシップを作ること、将来の社会を担う彼らとともに、草の根レベルで平和な社会を構築していく基盤を創っていく。





<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machi/kenkyu/renkei/1022243.html>

👉 大学生によるまちづくり提案発表会2019
webページ
👉 藤井研究室提案内容



【担当】
国際学科
藤井(国際法)研究室

国際学部

子どもの権利保障に向けた 市民参加型アプローチの実践

ゴール16、とりわけ子どもの権利保障への取り組みが宇都宮市内において不十分であるという問題意識から、大学で平和と公正について学ぶ私たちが主体となって、子どもの人権ワークショップを市内各所で実施した。加えて、高校生をボランティアとして継続的に招き、持続性のある取り組みにするとともに、高校生自身の子どもの権利やゴール16への理解の促進にも努めた。また、上記のテーマでうつのみや市政研究センター主催の「まちづくり提案発表会」にも参加し、最優秀賞を受賞した。



11 住み続けられる
まちづくりを



8



13



10

人や国の不平等
をなくそう



14

海の豊かさを
守ろう



今治市美保地区を盛り上げろ！

食×教育で漁師を守る

国際学部

私は、愛媛県今治市の美保地区という部落意識が強い漁師町で育った。今その昔ながらの営みは、グローバルイゼーションによる魚価競争に敗れ、衰退しかけている。そこで、人々の内部意識を変え、美保地区に活気を呼び戻すため古民家をリノベーションした「美保の魚食堂」を開く活動を始めた。資金繰りは、FC今治オーナーの岡田武史氏に依頼することができた。

しかしながら、コロナの影響により現在は活動が停止している。コロナが終焉次第、再開予定である。



出資者の岡田武史氏



プロジェクト協力者の
美保地区最年少漁師



今治漁業組合の方々と
打ち合わせ

【学生】

国際社会学科
矢野 いずみ